

令和 6 年 4 月 3 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00756

研究課題名（和文）欧米とアセアンの（準）英語圏間を越境する日本人学生たち：その動機と留学成果

研究課題名（英文）Japanese students cross-migrating between Western and ASEAN English-speaking countries: Their motivation and study-abroad results

研究代表者

小林 葉子（Kobayashi, Yoko）

岩手大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：00352534

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：東アジアの学生たちの間では、欧米英語圏だけではなくアセアン準英語圏出身の英語教師から英語を学ぶことが一般化している。この学習経験の多様性についての調査を進めた。ただ、コロナ感染症の影響で現地調査に行くことが出来なかった。そのため、(1)欧米とアセアンへの留学経験者を対象としたアンケート調査に加え、(2)日本在住者で、欧米人とフィリピン人両方からの英会話レッスン受講経験者を対象としたアンケート調査を実施した。フィリピン人という「同じアジア人」の「英語学習者」から英語を学ぶ意義を見出すことと、「白人英語ネイティブ」教師を理想・目標とする価値観の維持には矛盾がないことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語留学した場合でも、日本にいても、欧米人英語教師以外から英語を学ぶという選択肢が一般的になっていることは、日本人英語学習者の英語学習機会の多様性という意味で大きな意味がある。しかしながら、その多様性は教師たちの階層化とともに進んでいる。そして、その格差を英語学習者だけではなく、英語教育関係者たちも無批判に受け入れ続けている。「白人英語ネイティブ」を頂点とした認識に対して学术界や一般社会が批判的なまなざしを持ち続けることの必要性が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：Due to the prolonged impact of the COVID-19 pandemic on the present research project, it modified its original plan of conducting research in study-abroad contexts by administering online questionnaire surveys to (1) Japanese English learners who have studied English both in the English-speaking ASEAN countries and the West and (2) those who have taken private online/in-person English lessons both from Western and Filipino English teachers. These studies revealed the coexistence of Japanese English learners' benefit from the diversification of English study opportunities and their adherence to (white) native-speaker norms.

研究分野：応用言語学

キーワード：アセアン準英語圏 欧米英語圏 英語ネイティブ志向 言説・イデオロギー

1. 研究開始当初の背景

- (1) 韓国や中国など多くの非英語圏出身学生たちにとって、アセアン準英語圏での英語留学は欧米英語圏での本格的留学を前にした準備場所・期間という位置づけが一般的である。実際に日本の教育機関や留学推奨産業も、日本人英語学習者たちがアセアン準英語圏を「踏み台」として英語力と自信をつけることで、次の長期的な欧米英語圏留学に挑戦することができるようになる・なってほしい、という考えを表明していた・いる。
- (2) しかしながら、個人の日本人英語学習者たちが韓国人や中国人学生たち同様に、「アセアン準英語圏で早期・集中英語留学 欧米英語圏で(での)大学留学」という一方方向の留学を行っているのかどうか、という本格的調査は行われていなかった。

2. 研究の目的

- (1) 個人の日本人英語学習者たちが韓国人や中国人学生たち同様に、「アセアン準英語圏で早期・集中英語留学 欧米英語圏で(での)大学留学」という一方方向の留学を行っているのかどうか、調査を行う。ただし長引く新型コロナ・ウィルス感染症の影響で、予定していた現地調査に行くことが出来ない状況が続いたため、欧米とアセアンへの留学経験者を対象としたアンケート調査を実施した。
- (2) 上記の調査の結果、日本人英語学習者の越境パターンは他の東アジア人学生たちの「踏み台」としてのアセアン準英語圏での早期・集中英語学習とは違うパターンが見られた。その多様なパターンの背景にある動機や要因について調査した。
- (3) さらに現地調査ができないため、日本在住者で、欧米人とフィリピン人両方からの英会話レッスン受講経験者を対象としたアンケート調査を実施した。この調査を通じて、英会話レッスン受講においても、「フィリピン人英語教師レッスン 欧米人「ネイティブ」教師レッスン」という一方方向の英語学習パターンが見られるのかどうか調査した。

3. 研究の方法

- (1) 主に国内での文献調査
- (2) アンケート調査 1 回目：欧米とアセアン英語圏両方に英語留学経験者 100 名(有効回答 85 名)
- (3) アンケート調査 2 回目：フィリピン人講師英会話受講生 100 名(ネイティブ講師レッスン受講歴有者も排除しない)
- (4) アンケート調査 3 回目：欧米・フィリピン英語講師レッスン受講経験者 100 名(女性限定；20~50 代)
- (5) アンケート調査 4 回目：欧米・フィリピン英語講師レッスン受講経験者 200 名(女性限定；20~50 代)

4. 研究成果

- (1) アンケート調査 1 回目：日本の若者たちが「アセアン」という非欧米英語圏を英語学習や異文化理解の場として認識し渡航していることが確認できた。しかし同時に、そうした新たな選択は「ネイティブ英語」を目標モデルとする従来の英語学習の継続に矛盾するものではないことも確認した。つまり、「アセアン 欧米」群にしても「欧米 アセアン群」にしても、欧米英語圏にて「本場」の「生きた」英語を学んでみたいという動機や「ネイティブの英語」を学校で学んできたという自己認識が留学順序パターンに影響していた。
- (2) アンケート調査 2 回目：上記のアセアン準英語圏留学経験者への調査同様に、日本にてフィリピン人英語教師からオンライン英会話レッスンを受講している学習者たちに関しても、強い「白人英語ネイティブ」志向が確認できた。つまり、彼らのレッスン受講理由は講師たちの「訛り」を気にする段階ではない初級英語学習者としての自覚、欧米圏出身の英語教師による割高のレッスンとの差別化などの要因が背景にあった。なお、男性44名と女性55名の受講動機として、男性の場合は仕事での英語使用を理由とした回答が一番多かったが、女性の場合は海外旅行や「趣味・習い事」という回答が多かった。
- (3) アンケート調査 3 回目：上記の調査で明らかになったジェンダーという要素をさらに追究するために、女性たちの英語学習受講目的について調べた。その結果、女性たちは様々な受講パターンから欧米人とフィリピン人双方から英会話レッスンを受講していること、ただし、受講目的が「趣味」であったとしても「ネイティブ英語」を目標モデルとする従来の英語学習観を維持していること、などが明らかとなった。
- (4) アンケート調査 4 回目：上記の女性に焦点を当てた研究をさらに進め、今回は回答者数を100名から200名に増やし、統計分析も実施した。その結果、英会話講師がフィリピン人(女性)でも欧米人(男性)でも関係なく、(1)若い女性ほど「趣味・習い事」目的で英会話受講している傾向があること、(2)年齢が上がるほどそうではなく、講師の「アクセント・訛り」が気になるようになること、などが明らかになった。日本の若い女性の英語学習動機は「白人社会・男性へのあこがれ」であるという説・論・イメージが根強いが、本調査の結果、フィリピン人(女性)講師によるレッスンを受講する日本人女性への調査に加え、中高年女性を加えた世代別の調査の重要性が明らかになった。
- (5) 文献調査：(1)-(4)調査により、外国人英語講師から英語を学ぶ機会の多様化と(欧米人英

語ネイティブを頂点とする)階層化に対して、英語学習者たちが当然視していることが明らかとなった。こうした価値観が日本の英語教育現場でも再生産されているのかどうか確認するため、中等教育における外国語指導助手と言われるALTたちの採用に関する文部科学省や関連団体の立場について調査をした。その結果、1977年から変わらない「現代の標準的な発音」モデルの維持のために、ALTたちの階層化に基づく国籍レベルでの多様性が促進されていることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 小林 葉子	4. 巻 110
2. 論文標題 日本人英語学習者による欧米とアセアン（準）英語圏への留学順序と目的	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手大学人文社会科学部紀要	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15113/00015689	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小林 葉子	4. 巻 111
2. 論文標題 フィリピン人講師によるオンライン英会話レッスンの受講動機：調査と考察」『岩手大学人文社会科学部紀要	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手大学人文社会科学部紀要	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15113/00015898	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kobayashi, Yoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Relationships between young/older Japanese women and Filipino/Western English teachers: Age, gender, ethnicity, and English-speaker status	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RELC Journal	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/00336882231161850	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kobayashi Yoko	4. 巻 54
2. 論文標題 Japanese English Learners' Perceptions of Filipino Teachers' Online English Lessons: Implications for Global Englishes Research	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RELC Journal	6. 最初と最後の頁 574-587
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/00336882211061629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yoko	4. 巻 81
2. 論文標題 Non-globalized ties between Japanese higher education and industry: crafting publicity-driven calls for domestic and foreign students with global qualities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Higher Education	6. 最初と最後の頁 241-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10734-020-00539-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yoko	4. 巻 44
2. 論文標題 Studying English both in the ASEAN region and the West: Japanese multiple sojourners' self-identity, privilege, and global isolation	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Multilingual and Multicultural Development	6. 最初と最後の頁 498-510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01434632.2020.1835928	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yoko	4. 巻 33
2. 論文標題 "Contemporary standard" English policy and pseudo diversity among inner and outer circle assistant language teachers in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 260 ~ 274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijal.12464	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yoko	4. 巻 91
2. 論文標題 Japanese female English learners' two-stage learning from Filipino and Western English teachers to acquire "accent-free" English	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Language & Communication	6. 最初と最後の頁 46 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.langcom.2023.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Kobayashi, Yoko
2. 発表標題 Marketing of Filipino English teachers in the world of native English ideology
3. 学会等名 20th Asia TEFL International Hybrid Conference (ハイブリッド開催 online発表) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kobayashi, Yoko
2. 発表標題 The significance of Filipino English teachers for West-oriented Japanese during the pandemic
3. 学会等名 RELC Conference (ハイブリッド開催 online発表) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kobayashi, Yoko
2. 発表標題 'Real' English spoken only in the West: Japanese students' unchanged perceptions after their ASEAN sojourn
3. 学会等名 Symposium Sociolinguistics 23 (香港大学、オンライン開催) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kobayashi, Yoko
2. 発表標題 The inclusion and equity of non-Anglophone ALTs in Japan's diversity-needed EFL education
3. 学会等名 The 56th RELC International Conference(シンガポールRELC Hotel、オンライン開催) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林 葉子
2. 発表標題 フィリピン人講師による英会話レッスン受講者への調査：ネイティブ志向との関係
3. 学会等名 日本コミュニケーション学会東北支部研究大会・JACET東北支部 合同開催（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林葉子
2. 発表標題 欧米とアセアン（準）英語圏への留学順序と目的分析
3. 学会等名 日本コミュニケーション学会東北支部研究大会・JACET東北支部 合同開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林葉子
2. 発表標題 外国語教育におけるコミュニケーション能力
3. 学会等名 日本コミュニケーション学会東北支部定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林 葉子
2. 発表標題 欧米とアセアンの(準)英語圏への留学動機と成果
3. 学会等名 第20回JCA東北支部研究大会・JACET東北支部（合同開催）、TKP仙台西口ビジネスセンター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, Yoko
2. 発表標題 Japanese Women's Beliefs Recreated by Hegemonic Discourse
3. 学会等名 International Society for Language Studies 2019 Conference, The Open University of Hong Kong (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Kobayashi, Yoko	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 166
3. 書名 Attitudes to English Study among Japanese, Chinese and Korean Women: Motivations, Expectations and Identity	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Researchmap https://researchmap.jp/yoko-kobayashi ResearchGate https://www.researchgate.net/profile/Yoko-Kobayashi-6

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------